平成 30 年度

もも病害虫防除暦

ＪＡ中野市営農センター

散布日	散布時期	散布薬剤（水１００㍑当り）	収穫前使用時期	使用回数(以内)	散布量（㍑）	対象病害虫（発生病害虫）	注　意　事　項
月 日	**３月 下旬 （発芽前）**	（水９８㍑） ①スプレーオイル　２ℓ トレノックスフロアブル　２００mℓ	発芽前 ７日前	— ５回	３００	縮葉病 カイガラムシ類 ハダニ類	①トレノックスフロアブルに代えて、石灰硫黄合剤の 10 倍（発芽前）でもよい。＊石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールにかからないようにする。 ②カイガラムシ多発園は、アプロードフロアブルの 1000 倍(14 日前、3 回)を加用する。ただし、石灰硫黄合剤とは混用できない。 ③コスカシバの発生園は被害部の樹脂を取り除きガットサイドＳ1.5 倍液（30 日前、1 回）を樹幹部に塗布する。
特別散布　開花期まで		**コスカシバ類の発生園は、フェニックスフロアブルの 500 倍(発芽前～開花直前まで、1 回)を樹幹部に散布する。**					
月 日	**開花 始め (1～2 輪咲)**	②IC ボルドー412　３．３kg	—	—	３５０	せん孔細菌病	①展葉後の散布は薬害発生が心配されるため、散布時期を厳守する。 ②IC ボルドー412 に代えて 4－12 式ボルドー液でもよい。 ③アブラムシ類の発生園はウララ DF2000 倍（14 日前、2 回）を加用する ④黒星病、（うどんこ病）の発生が心配される場合は、5 月上旬にコロナフロアブルの 500 倍を加用する。 ⑤ストマイ液剤 20 に代えて、アグレプト水和剤の 1000 倍(60 日前、2 回)でもよい。 ⑥ストマイ液剤 20、アグリマイシン-100、アグレプト水和剤等の使用回数は、合計で２回までとする。尚、ぶどうにかかると種無し果を生じるので、隣接園に飛散しない。 ⑦アグリマイシン-100 に代えて、ストマイ液剤 20・アグレプト水和剤の 1000 倍（60 日前、2 回）でもよい。
月 日	**５月 上旬 （前回から １０日後）**	③展着剤　１０mℓ トレノックスフロアブル　２００mℓ サムコルフロアブル 10　２０mℓ ストマイ液剤 20　１００mℓ	7 日前 前日 ６０日前	5 回 2 回 2 回	３５０	せん孔細菌病 黒星病、灰星病 モモハモグリガ ハマキムシ類	
月 日	**５月 中旬 （前回から １０日後）**	④展着剤　１０mℓ アプロードフロアブル　１００mℓ ストロビードライフロアブル　５０g モスピラン顆粒水溶剤　２５g アグリマイシン－100　６６g	１４日前 前日 前日 ６０日前	3 回 3 回 3 回 2 回	４００	せん孔細菌病 黒星病・灰星病 うどんこ病 アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カイガラムシ類	
月 日	**５月 下旬 （前回から １０日後）**	⑤展着剤　１０mℓ フルーツセイバー　５０mℓ ハチハチフロアブル　５０mℓ マイコシールド　６６g	前日 前日 ２１日前	3 回 2 回 5 回	５００	せん孔細菌病 黒星病・灰星病 （うどんこ病） モモハモグリガ アブラムシ類	①カイガラムシ類の発生園は、コルト顆粒水和剤の 2000 倍(前日、3 回)を加用する。
月 日	**６月 上旬 （前回から １５日後）**	⑥展着剤　２０mℓ デランフロアブル　１００mℓ アルバリン顆粒水溶剤　５０g	7 日前 前日	4 回 3 回	５００	せん孔細菌病 黒星病、(灰星病) (ホモプシス腐敗病) モモハモグリガ アブラムシ類 シンクイムシ類	
月 日	**６月 中下旬 （前回から １５日後）**	⑦展着剤　２０mℓ デランフロアブル　１００mℓ ダーズバンＤＦ　３３g	7 日前 １４日前	4 回 5 回	６００	せん孔細菌病 黒星病、(灰星病) (ホモプシス腐敗病) シンクイムシ類 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ	①カメムシ類の発生園はスミチオン水和剤 40 の 1000 倍（3 日前、6 回）を特別散布する。
月 日	**７月 上旬 （前回から １５日後）**	⑧展着剤　２０mℓ ダニゲッターフロアブル　５０mℓ ナリアWDG　５０g イカズチＷＤＧ　６６g	前日 前日 前日	1 回 2 回 5 回	６００	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ カメムシ類 ハダニ類	①ナリア WDG はぶどう（ピオーネ、サニールージュ）、西洋梨ル・レクチェに薬害を生じる恐れがあるので、飛散しないようにする。 ②ダニゲッターフロアブルは、ぶどうに薬害を生じる恐れがあるので、飛散しないよう注意する。
月 日	**７月 中下旬**	⑨展着剤　２０mℓ オンリーワンフロアブル　５０mℓ ディアナＷＤＧ　１０ｇ	前日 前日	3 回 2 回	６００	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ (アザミウマ類)	★有袋品種は除袋後に散布する。 ①シンクイムシ類の発生が心配される場合は、ディアナＷＤＧに代えてモスピラン顆粒水溶剤 4000 倍(前日、３回)を使用する。 ②カイガラムシ類の発生が心配される場合は、除袋後の散布にコルト顆粒水和剤の 2000 倍(前日、3 回)を加用する。
月 日	**８月 上旬**	⑩展着剤　２０mℓ ベルクートフロアブル　５０mℓ アーデントフロアブル　５０mℓ	前日 前日	3 回 3 回	６００	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 カメムシ類 アザミウマ類 (モモハモグリガ)	★有袋品種は除袋後に散布する。 ①ハダニ類の発生園はコロマイト乳剤の 1000 倍（7 日前、１回）を加用する。
月 日	**８月 中下旬**	⑪展着剤　２０mℓ オーシャインフロアブル　５０mℓ サムコルフロアブル 10　２０mℓ	前日 前日	3 回 2 回	６００	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 モモハモグリガ シンクイムシ類	★有袋品種は除袋後に散布する。 ①シンクイムシ類、(ミカンキイロアザミウマ）の発生が心配される場合は、サムコルフロアブルに代えて、エクシレル SE の 5000 倍(前日、3 回)を使用する。
月 日	**９月 上旬**	⑫展着剤　２０mℓ ベルクートフロアブル　５０mℓ	前日	3 回	６００	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病	★有袋品種は除袋後に散布する。 ①シンクイムシ類、アザミウマ類の発生が心配される場合は、アーデントフロアブル 2000 倍（前日、３回）を加用する。
月 日	**収穫後 3 回散布 ９月上中旬 ～**	⑬・⑭・⑮ IC ボルドー412　３．３kg スミチオン乳剤　１００mℓ	ー 3 日前	ー 6 回	６００	せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ ハマキムシ類 カメムシ類	＊スミチオン乳剤は、１回目の散布のみ使用する。 ①IC ボルドー412 に代えて 4－12 式ボルドー液、コサイド 3000 の 2000 倍(収穫後～落葉まで)を使用してもよい。 (薬害が心配される場合はクレフノン 100 倍を加用する) 【落葉後～萌芽前までの防除】 コスカシバの発生園は、ラビキラー乳剤 200 倍（休眠期、1 回）を樹幹及び主枝に十分散布する。
特別散布　休眠期		**縮葉病が発生した園地は、落葉後にオキシラン水和剤の 500 倍(発芽前～開花直前まで、４回)を特別散布する。**					